

令和5年度 8月定例会会議録

- ◎招集年月日 令和5年8月18日(金)
- ◎開催日時 令和5年8月24日(木) 午後3時～午後4時32分
- ◎場所 伊那市役所 庁議室
- ◎出席委員 笠原教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員、黒河内教育委員
- ◎欠席委員 なし
- ◎出席職員 三澤教育次長、宮下学校教育課長、北林子ども相談室長、矢澤生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、福與指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

2 あいさつ 教育長

- ・磯田道史さんの講演お聴きした。著書の「徳川家康 弱者の戦略」では、家康がなぜ三河の弱小大名から天下を手に入れ、260年もの政権を築けたのかを考察されている。
- ・私自身も社会科の教員であり、近世から安土桃山時代の歴史について学ぶとき、守護の家来の家来だった信長がなぜ天下統一の直前まで行くことができたのか、として学べるようにした。「なぜ」したら、「なぜ」に答えることが大事だったのだろうなと感じた。
- ・2学期が始まった。よろしくお願ひしたい。

3 委員のひと言 教育長

- ・県教委の学びの改革支援課では月刊で「教育指導時報」を発行しており、7月号に私が書いた「中村不折の獄色江聲」が掲載された。
- ・正岡子規記念博物館に正岡子規が書いた墨汁一滴の展示があるが、これは正岡子規が病んで伏せながら随筆を書いたもので、その中に中村不折について記載がある。
- ・その中で、中村不折は極めて経済的に苦しい中で勉強した人で、信州人の気質についても触れられている。
- ・後半に中村不折の成長を支えた人々を挙げているが、不折の創作や事業を支えた高遠、伊那、信州の人々、そうした人たちの見守りと支えを得て不折は持てる力を伸ばし、いかんなく発揮し、偉大な業績を残した、そのように思っていると書かせていただいた。

4 会議事項

第1 教育長報告

- ・教育長から資料に基づき報告。

第2 議案

- (1) 伊那市誌編さん委員会統括会設置要綱の制定について
- (2) 伊那市誌編さん委員会部会運営要綱の制定について
- (3) 伊那市誌編さん協力員設置要綱の制定についてについて
 - ・市誌編さん室長から(1)から(3)まで資料に基づき説明。
 - ・質問、意見はなく、(1)から(3)まで原案どおり決議された

第3 協議事項

上伊那教育課程研究協議会担当学校について

- ・学校教育課長から資料に基づき説明。
(質問・意見なし)

第2 報告事項

- (1) 第2次伊那市総合計画後期基本計画（原案）への意見について
 - ・教育次長から資料に基づき説明
 - ・職務代理者から「いくつか意見があるので相談させていただく。」旨の発言があった。

- (2) 「中学生の自習室2023夏」の実績報告について
 - ・学校教育課長から資料に基づき説明
 - ・教育長から「東部中学校の子が通う伊那公民館と美篤公民館の人数を合わせるとかなりの数になるが、手良公民館で実施して欲しいという意見は無かったか。」との質問があり、学校教育課長から「特にお聞きしていない。」との回答があった。

- (3) 「おいで塾事業」の実績報告について
 - ・生涯学習課長から資料に基づき説明
 - ・社会教育指導員から「中尾座の見学は小学校低学年には少し難しいところもあったが、説明がわかりやすく、興味深く学習できた印象がある。」旨の感想があった。
 - ・教育長から「長谷会場では常福寺の住職とあるが、中尾座に来られたのか。」との質問があり、社会教育指導員から「何日か会場へ起こしいただき、低学年向けのお話をいただいたと伺っている。」旨の説明があった。
 - ・生涯学習課長から「招待者は各地区で考えがあり簡素化している地区もあるが、民生児童委員の負担が大きいという話もあり、今後、考えてまいりたい。」旨の補足があった。

- (4) 「二十歳のつどい」の実績報告について
 - ・生涯学習課長から資料に基づき説明
 - ・教育委員から「式典は40分程度で、参加者は半数程度、市長のビデオメッセージを添えている。以前の合同開催とは異なり、その地区の中の子どもとして育てられてきた人たちが20歳になり、皆様に受け入れられる形になっており、きちんとした形の式典で行儀はよいが、何か意味を考えてしまう。人口減の中で合同でも実施できるなら、リアルに市長から話を聞いてもよいと思う。」旨の意見があった。
 - ・教育長から「家族として考えると、その意味としては大きいと思う。今後のあり方を検討していくとき、子どもたちの育ちを応援してくれた地域のお祝い機能との兼ね合いもある。委員ご提案のとおり、市長が直接話をする、それをお聞きすることも大事なことと思う。」旨の発言があった。
 - ・教育委員から「二十歳のつどいの意味について、20歳の若者たちからすると同級生や先生と会う、家族からは成人式へ出る、それぞれ意味があると思う。そういう意味で、市長の話が無かったら、それこそ何のためにやるのだらうと思うが、今回は、例年にも増して、帰ってきて欲しいという気持ちが強く出ていた。市長から直接話を聞くためには別の難しさもあり、今のところは良いと思う。」旨の意見があった。
 - ・職務代理者から「竜東や竜西の規模が大きく、学校やクラスが違うことがあると思う。他の会場は当時の担任が来られて、小学校や中学校のときに抱いた夢が数年経った今、どうなっているか見る場にもなっている。西春近では全員が今の思いを書いて、子どもの時からの成長を見返す様子があり、意味はあると感じた。おそらく家を出てくるときに家族と一緒に記念の写真を撮るなど、気持ちの上で一つスイッチを入れる、そのようなこともあると思う。」旨の意見があった。

- (5) 人権同和教育事業について
 - ・社会教育指導員から資料に基づき説明

- ・教育長から「子どもたちの表情が良く撮れているが、社会教育指導員が撮られたのか。」との質問があり、社会教育指導員から「自分で撮っているが、中学生の自習室は学校教育課の小池さんや公民館の主事に撮っていただいた。」旨の回答があった。

(6) 市誌編さん事業の進捗状況について

- ・市誌編さん室長から資料に基づき説明
- ・教育長から「年表はどのようなサイズか。」との質問があり、市誌編さん室長から「資料のものはA5サイズで、A4サイズの半分の大きさの冊子となる。伊那市で作成するものはA4縦版で考えている。」旨の回答があった。
- ・職務代理者から「上田市版では、限られたスペースに西暦、和暦、干支があり、かなり意味があり、わかりやすいと思う。」旨の意見があった。
- ・教育長から「上田市以外はどうか。」との質問があり、市誌編さん室長から「出している自治体は少なく、松本市、長野市のものは15年以上前のものである。須坂市の年表は、縦書き、時系列で言葉が並んでいて、ページの上部に写真が載ったスタイル。上田市の年表が最新のものとなっている。」旨の回答があった。

(7) 8月以降の文化施設の行事日程について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育長から「歴史博物館の3日間無料について、どの程度周知しているか。」との質問があり、生涯学習課長から「市報、市公式ホームページ、安心安全メールで周知する予定。」との回答があった。
- ・教育長から「市民の財産を市民の皆さんにご覧いただくよい機会になるので、多くの方に届くようお願いしたい。」旨の意見があった。

(8) 共催・後援について

- ・宮下学校教育課長から資料に基づき説明
(質問・意見なし)

5 その他

(1) 9月の日程について

(2) 10月以降の主な行事予定について

- ・三澤教育次長から(1)から(2)まで、資料に基づき説明
(質問・意見なし)

6 閉会